

# 絵の旅 Vol5

深く沈み軽やかに浮かぶ

The Silence Activity

伊庭靖子 岡崎乾二郎 関根直子 東城信之介

**2020 6.6**(sat) — **6.27**(sat)

M A 2 G a l l e r y

渋谷区恵比寿3-3-8 150-0013 日月祝日休み 12:00 - 19:00  
03 3444 1133 ma2@ma2gallery.com www.ma2gallery.com



絵の旅 vol.5

# 絵の旅 Vol5

深く沈み、軽やかに浮かぶ

- The Silence Activity

伊庭靖子、岡崎乾二郎、関根直子、東城信之介

2020年6月6日(土)～6月27日(土)

ジャンルに捉われず、多様な表現がなされるようになった現代。  
そんな今でも「絵ってやっぱりいいよね。」という声を多く受けます。  
そこで絵画の魅力とは何だろう？と始めたシリーズ「絵の旅」。

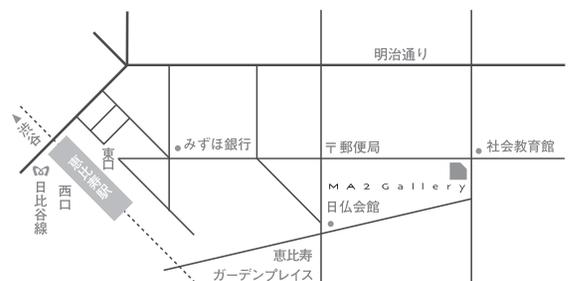
作品が作家のアトリエから旅立ち、世界中のどこかで  
場所も時代も超えて展示されてゆくこと。  
鑑賞者が絵と向き合った時、感性と知の旅が始まること。  
人の手から手へと作品が受け継がれてゆくこと。  
そんなことを想いながら続けています。

5回目となる今回は、表層からの冒険へ。  
視覚的な揺らぎ、層を幾重にも持つ作品を主に構成致しました。  
絵の中に込められた深さや広さ、それと同時に  
絵の外にも拡張してゆく、絵がつくる場・空気。  
鑑賞者の心の奥に届きながら、生まれる外への共感力。  
自由な絵の旅をどうぞお楽しみ下さい。

協力：Takuro Someya Contemporary Art (岡崎乾二郎)

M A 2 Gallery

渋谷区恵比寿3-3-8 150-0013 日月祝日休み 12:00 - 19:00  
03 3444 1133 ma2@ma2gallery.com www.ma2gallery.com





untitled  
oil on canvas  
h150×w180cm  
2019

## 伊庭靖子 Yasuko Iba

1967年 京都府生まれ、1990年 嵯峨美術短期大学版画科専攻科修了、1999年 ダイムラークライスラーグループアート・スコープ'99 フランス・モンフランカンにて制作滞在、2001-02年 文化庁在外研修員としてニューヨークに滞在  
自ら撮影した写真をもとに、モチーフの質感やそれがまとう光を描くことで、物の佇まい、景色を表現し続けてきました。その静謐な作品は琴線を揺さぶり、存在に対する視線の在り方や、心の行方を静かに深く問いかけます。絵の中に深く誘われる事により、鑑賞者自らの記憶の中にある感覚が呼び覚まされ、より繊細な感覚や感性に気づかされます。

主な展覧会

2005年「秘すれば花：東アジアの現代美術」森美術館、2007年「椿会展」資生堂ギャラリー(09,10)、2009年「伊庭靖子展 -まばゆさの在処」神奈川県立近代美術館、2011年「Art in an Office -印象派・近代日本画から現代絵画まで」豊田市美術館、2015年「画家の詩、詩人の絵 -絵は詩のごとく・詩は絵のごとく」平塚市美術館・碧南市藤井達吉現代美術館・姫路市立美術館・足利市立美術館・北海道立函館美術館、2019年「伊庭靖子展 まなざしのあらい」東京都美術館 ほか多数

主な公的コレクション

神奈川県立近代美術館、群馬県立館林美術館、滋賀県立近代美術館、京都府、東京オペラシティアートギャラリー、資生堂アートハウス、株式会社大林組、第一生命保険相互会社、トヨタ自動車株式会社、Daimler Chrysler Group in Japan、The Cleveland Museum of Art



《凧と嵐、からまる淵瀬 /  
Where the boys are》  
acrylic color on canvas  
h16.2×w20.5×d2.9 cm  
2018

## 岡崎乾二郎 Kenjiro Okazaki

1955年東京生まれ。

国内での展覧会はもとより、1982年パリ・ビエンナーレ招聘以来、数多くの国際展に出品。

総合地域づくりプロジェクト「灰塚アースワーク・プロジェクト」の企画制作、「なかつくに公園」(広島県庄原市)等のランドスケープデザイン、「ヴェネツィア・ビエンナーレ第8回建築展」(日本館ディレクター)、現代舞踊家トリシャ・ブラウンとのコラボレーションなど、つねに先鋭的な芸術活動を展開しています。

大規模な個展では、2019-20年豊田市美術館にて、岡崎自身の作品とその活動の全貌を紹介する「視覚のカイソウ」を開催。2009-10年東京都現代美術館における特集展示では、1980年代の立体作品から最新の絵画までを俯瞰。2014年のBankART1929「かたちの発語展」では、彫刻やタイルを中心に最新作を発表しています。

長年教育活動にも取り組んでおり、芸術の学校である四谷アート・ステュディオム(2002-14年)を創設、ディレクターを務め、2017年には豊田市美術館にて開催された『抽象の力ー現実 (concrete) 展』の企画制作を行いました。

著書に『抽象の力 近代芸術の解析』(亜紀書房 2018年)、『ルネサンス 経験の条件』(文春学芸ライブラリー、文藝春秋 2014年)、『芸術の設計一見する / 作ることのアプリケーション』(フィルムアート社 2007年)、『ぼぼーべ ぼびぼっぶ』(絵本、谷川俊太郎との共著、クレヨンハウス 2004年)。

『抽象の力 近代芸術の解析』にて、平成30年度(第69回)芸術選奨文部科学大臣賞(評論等部門)を受賞。



Mirror Drawing  
pencil, colored pencil,  
acryl gouache  
h180×w298cm  
2018

## 関根直子 Naoko Sekine

1977年東京生、2001年武蔵野美術大学大学院造形研究科美術専攻油絵コース修了、2013-14年文化庁在外研修員としてパリに滞在一貫して、人間がイメージを描く、という事の根源的な意味を問う作品を制作しています。

鉛筆やシャープペンシルといった身近なモノクロームの素材を使い、その筆致の重なりや変化によって、風景やイメージを彷彿とさせる作品で評価されてきました。頭の中にあるイメージと手の動きから生まれるイメージを、意識と感覚の間に身を置きながら、画面に点や線で描いてゆく行為は、まるで禪の修行のような制作方法といえるかもしれません。近年ではモノクロームの世界から、色を取り入れたり周囲の環境を映し込む作品へと進化をしています。

主な展覧会

2007年「線の迷宮 <ラビリンス> II - 鉛筆と黒鉛の旋律」目黒区美術館、2009年「I BELIEVE- 日本の現代美術」富山県立近代美術館、2010年「Doubles lumières」パリ日本文化会館、2011年「Nearest Faraway 世界の深さのはかり方 - MOT アニュアル 2011」東京都現代美術館、2014年「開館20周年記念 MOTコレクション特別企画第2弾『コンタクト』」東京都現代美術館、

「17th DOMANI・明日展 未来を担う美術家たち」国立新美術館)、2015年「モダン百花繚乱『大分世界美術館』」大分県立美術館、2016年「VOCA展」上野の森美術館(08年12年も)、2019年「東京都現代美術館リニューアルオープン記念展」東京都現代美術館

主な公的コレクション

府中市美術館、東京都現代美術館、大分県竹田市立図書館



suringisaku  
Titaniumplate, Coca-Cola, Pigment, Transcription, Aerosol  
h200×w180cm  
2019

## 東城信之介 Shinnosuke Tojo

1978年 信州生まれ、2004年 東京造形大学造形学部美術学科比較造形卒業、2005年 東京造形大学研究生修了

幼少の頃より作家にしか見えなかった虚像や心象風景をモチーフに、薄い金属板の表面に傷をつけたりペイントをする事で再現し作品にしています。そんな自身の中の不可思議な世界を物質化することが、生を感じる唯一の方法であり不安を取り除いてくれた、と作家は言います。2次元から現れる3次元はイリュージョンであり、光や空間から様々な影響を受けレンチュラーやホログラムとはまた違った見え方が独自の世界観を成立させています。

主な展覧会

2008年「釜山国際環境芸術祭」釜山 / 韓国、「THE EAST and THE EAST」上野の森美術館、2013年「マツシオロルタナティブ」池田満寿夫美術館、「アラフドアートアニュアル」福島 / 土湯、2014年「富士の山ビエンナーレ」富士 / 静岡、2016年「Sharing the Future」チェンマイ、2018年「SICF18 Winner Exhibition」Spiral、「シエル美術賞」国立新美術館、「対流風景 Convective Scenery 2018」

広州 53 美術館、2019年「VOCA展」上野の森美術館 (VOCA 賞受賞)、「中・之条美エンナーレ」群馬 ほか多数

主な公的コレクション

第一生命株式会社、アスコットホテル、ホテルオークラ(オランダ)